

開会のあいさつ

山村睦夫 和光大学総合文化研究所所長／経済経営学部教授

本日は、総合文化研究所主催のシンポジウムにお集まりいただきありがとうございます。最初に私から簡単にシンポジウムの意義について、お話をさせていただきます。最初に私から簡単にシンポジウムの意義について、お話をさせていただきます。最初に私から簡単にシンポジウムの意義について、お話をさせていただきます。

これまで、アジア地域、とくに東南アジアに住む人びと、なかでも海の民といえますか、海上交通の担い手達が、自分達の地域を起点にして、さまざまな地域にネットワークをめぐらせてきました。一昨年暮れ（2004年12月）の津波被害に対する復興支援活動などを見ていると、こうした地域をつなぐ人びとのネットワークの存在が改めて浮かびあがってきたように感じます。そして、その重要性を強く実感させられたことも、今回の地震の教訓だと思います。つまり、国の単位ではなくて、地域にまたがった人間のネットワークがどういうかたちで今後も展開し得るのかということは、私達に投げかけられた現代的課題だと思います。これが本日のシンポジウムで考えていきたい課題の1つ目です。

それからもう1つの課題をお話しします。皆さんはアンダマン・ニコバル諸島をご存知でしょうか。このアンダマン・ニコバル諸島というのは、ベンガル湾に面した群島です。日本人にはなじみの薄いところかもしれません。この島々は、スマトラ沖地震によって大きな被害を受けました。被害報道で、私はその名前を聞いた時、あることを思い出しました。この島は、太平洋戦争中の1942年に、旧日本海軍が軍事占領をした島です。

何でそんなに遠くまで日本軍がやって来たのかというと、この島が英国インド領であり、対英戦略の一環として軍事占領したのですが、今日はこのことは省略しまして、日本軍が軍事占領をもって、ここで何をしたのかについてお話します。実は、海軍の航空基地をつくりました。その際、ロームシャ（労務者）としてジャワ島やスマトラ島から多くの人びとが連れてこられました。島の人口だけでは十分な労働力を得ることができなくて、基地建設のために外部から労働力を連れて来たのです。一方で、島の住民達のうち50名以上がイギリス軍のスパイだという理由で処刑されたりもしました。また、食料が足りなくなったということで、数百名の島民が別の無人島に移されました。無人島へ移されるということは、食べるものもないわけですから、その後どうなるかわかるわけです。そういうような、日本軍による占領支配が行なわれた島なのです。

東インド洋にある地域だとか、東南アジア諸国というのは、60年前をたどると、そうした日本とのつながりのなかにあったわけです。津波の被害がでた時に、この地域について、一部の人からは日本との関わり、特に外交上、あるいは国益という観点から支援が語られました。それを聞き、ここで、支援というものが日本のナショナル・インタレストの立場から叫ばれているとしたら、果たして両者の間の歴史を踏まえた議論はどこに行ってしまうのだろうかという素朴な疑問が思い浮かびました。

いま、私たちが関わった支援というものが、人間と人間の関係、ヒューマンネットワークをつくり上げたというのであれば、そのことを通して、どういった支援が未来へとつながっていくのか、あるいは、そのなかから浮かびあがった、その地域の社会環境というのはどういうものなのか、さらには、どのような可能性があるのかなどを考えてみることは、単に復興支援の問題にとどまらず、地域の可能性、人間同士の可能性、あるいは科学研究の可能性もそのなかには見出せるのではないかというふうに考えています。ですから、今回のシンポジウムに関しては、異文化交流室から協力要請があった時に、研究所という立場でも取り組むことにしたわけです。

こうした問題意識を持ちながら、今日のシンポジウムに参加したいと思っております。

[やまむら むつお]

司会＝バンバン・ルディアント：まず、今日のシンポジウムの契機は、2004年12月に発生したスマトラ沖地震の際に見られた国際援助の姿にあります。それまで、国際援助は政府同士の活動を中心としていました。しかし、大きな災害を目の前にして、実は政府より、もうちょっと小さいコミュニティベースの、もちろんNGOも含めて、小回りの効く活動に軸足を移す必要があるのではないかと議論されるようになりました。

そして、アジア地域には、高い民族意識を持った人びとが住んでいます。そのことは、しばしば政府間レベルの活動を凌駕したネットワークを想起させます。そこで、このアジア地域が直面する2つの側面、コミュニティベースの活動と、国境を超えたネットワークの拡がりを念頭に置きながら、アジア・ヒューマン・ネットワークの構築を考えたいと、こういうふうに思っております。

早速、各パネラーには、自己紹介を兼ねて10分ほど、問題提言とご自分の意見を述べていただければと思います。

アジア地域のヒューマンネットワークというのは、政府間だけではなくて、もうちょっと狭い範囲で、市、町の単位でも盛んに行なわれています。最初にその事例を岩崎先生に述べていただきたいと思います。よろしくお願いします。